



新鑄

椿說弓張月

續編
卷四

~13
3908
16



13
3908
16

鎮西八郎 椿説弓張月續編卷之四
鳥朝外傳

東都 曲亭主人編次

第三十八回

一夜の夫婦永訖を守れ
鏡中の幻術骨肉を割

寧王女廉夫人を中城に囚籠られ。嬾と月日をあけ暮し。後
隙の駒の足掻速く。又五七年の春秋を過し。かりし後
中婦君利勇も憚れとこがしとや。あひらん。毒計を逞にして
逼り苦しめんも。せと王女ハ元身。王位も。あひらん。毒計を逞にして
後々として。只困雅。生涯を。おらんとの。原ひ。あひらん。毒計を逞にして
小才色の儔。なれ。い。か。あひらん。毒計を逞にして
冤枉不。唯。薄氷。踏。より。も。あひらん。毒計を逞にして



春記... 長月續編卷之四

毛國典が誠忠にて哺進ほくしんせられたるあり。されど人嫌忌いとせの中うちにありて
 おける親おやくんとあつさりし。よる夜更よる更更園園て溜ひそ中中に海門うみかどを誰たれと問とひし
 たらぬ毛國典けいけんなりと答こたへり。王女おんむすめも夫人おんあんなもいとあつさりし。お世よに
 申まをすて嘆なげび入いりて。對面たいめんあつらふ毛國典けいけんの出居いせのか。再また晩ばんこして。さ
 入いりて。席せき薦せんふも。下したは折ちがれ。甚すこびく。帳と申まをすの刻とき
 夜よもさかしく。いと妙たぎを。非ひの袴はかまを掛かられ。拂はらひもあぬ。紙し窓まど
 家がほがれ。蜘蛛くもの網あみは。昨夜おとよの雨あめ降ふりて。死して玉たま簾すだもえ。せ
 りれど。網あみ代しろ天井てんかうの漏もれ。痕あとは。汚よごれて。月つきの暈うらと。あつり。め。死しり。
 貴たかれ。る。世子せきしあて。お世よに。過す世せあ。り。て。か。く。の。世よに。相あい。れ。ら。れ。る。痛いた
 ち。と。よ。と。あ。つ。ら。い。涙なみだ先まづ。と。り。て。あ。つ。ら。い。も。は。ら。り。ぬ。當あ下した王女おんむすめと。
 真ま鶴つる。と。茶ちや。の。賜たまは。れ。せ。按おん司し。を。り。り。小夜せよ深ふかく。あ。つ。ら。い。事ことあり。て

か。と。同おなじ。ハ。毛國典けいけん小勝こしょうを。す。ら。ん。益ひきを。人ひとの。い。お。せ。て。嘆なげ白はく
 ち。と。あ。つ。ら。い。も。は。ら。り。ぬ。當あ下した王女おんむすめと。
 羨うらやみ。あ。つ。ら。い。廉れん夫人おんあんなも。夕ゆふ食くも。あ。つ。ら。い。命いのち婦めかけ真ま持もちハ。忠ちゆう臣しん司し馬ま公こう。
 の。女むすめ見みて。夫おとこ人ひとの。あ。つ。ら。い。異い母はは女むすめ身み正ただしく。王女おんむすめの。外ほか戚せきと。り。心こころを。信まかし。
 申まをす。ら。る。ハ。父ちちも。母ははも。あ。つ。ら。い。年とし事ことの。給たま事こと誰たれも。く。これ。あ。つ。ら。い。
 助たすけ。り。の。な。く。バ。よ。ろ。し。便べんな。く。ゆ。べ。よ。ろ。し。身み嫌きらめ。す。婚こん録ろくハ。結むすぶ。し。の。
 あ。つ。ら。い。と。れ。の。異いと。と。い。へ。壯さう佼かうを。擇えらぶ。ら。る。ら。れ。ば。と。い。の。婚こん録ろくハ。結むすぶ。し。の。
 て。ハ。倭わ人ひと忽たち地ぢ疑ぎひ。を。懸かり。て。王女おんむすめの。あ。つ。ら。い。あ。つ。ら。い。彼かの。夫おとこ是
 と。妻つまと。只ただ一ひと夜よの。契ちぎり。を。舞まび。て。百ひゃく年ねんの。苦くる楽らくハ。共ともに。せん。こと。忠ちゆうは
 裂ひか。な。り。て。ハ。よ。く。あ。つ。ら。い。自みづかの。あ。つ。ら。い。妹いもと。夫おとこを。推おし辞しと。と。あ。つ。ら。い。塔たかの。子こ

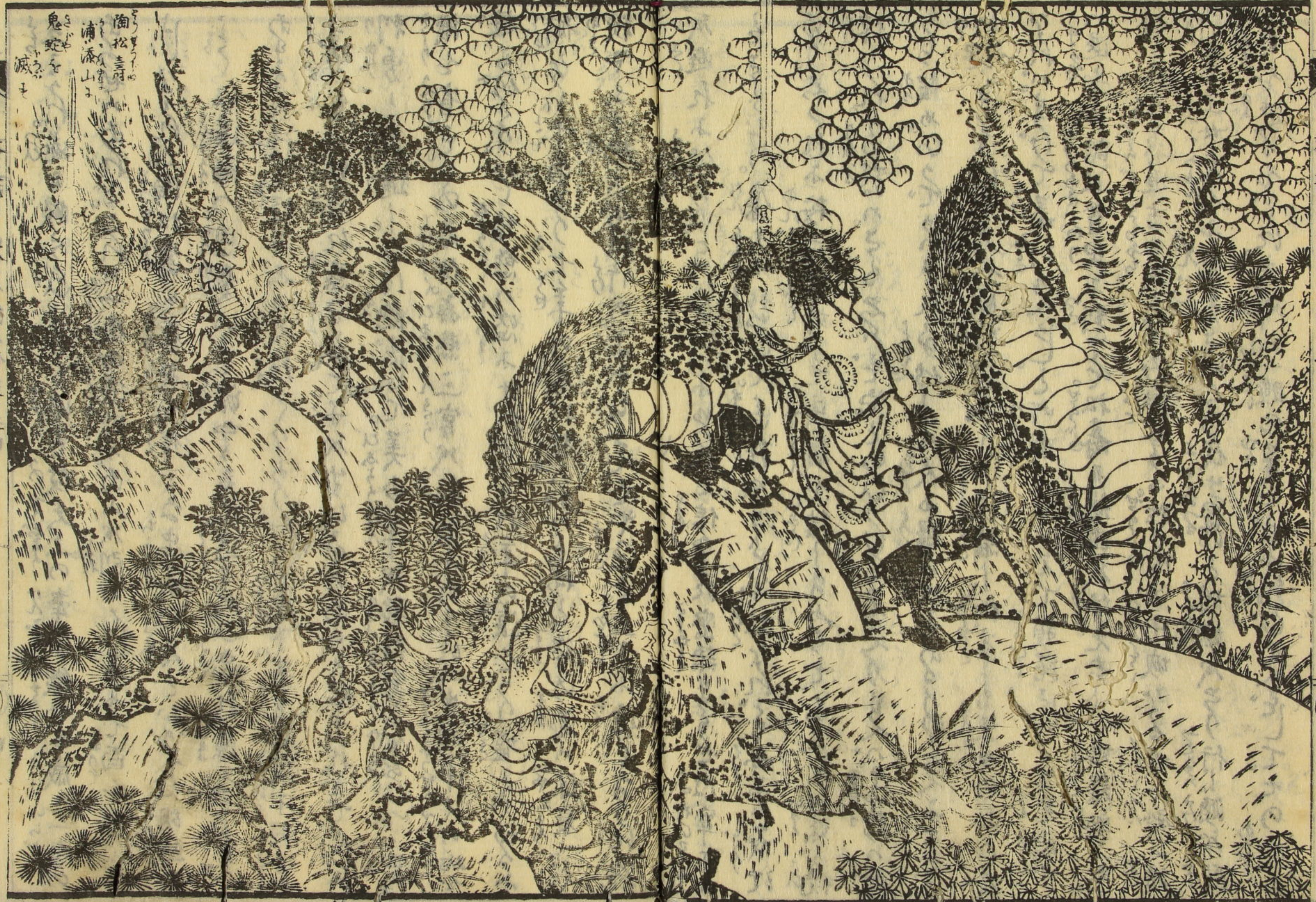
松壽がみ
 今も琉球
 國を能優
 侍信録
 以りその
 脚色本紀
 文珍か
 成寺とい
 曲曲
 あり

本言日記月録巻之四

八近曾御より奉られし松壽之子小松壽と名づりてのあての彼ハこの中
 城の属村なる。姑場の里ハ陶氏が一子なり。少壮より文武の道ハ
 常々首里ニ交加し、名を著せし。年十五の秋、浦添の山に遊遊し、
 驟雨を避んとて、獠夫の家小立入り。そかかびぬ。あつたは三女の毒蛇と
 思ひ、蛇を只一刀小滅して、その名之者あせり。父母を往年、月ま
 たり、その西二年、社官地をみ、忠勤を励了。今茲ハ九歳を、詔
 命、このりの原来、某が武藝の才子なる。成りて、豫々機密を説知
 らし、語の課てのへ、彼回者となりて、利勇あは阿諛ひ悪人なり。計校
 成、竊に告せ、じゆねり。かく憑り、壯俊なれば、忠義の為、小締、縁し
 を、いくて、推辞ひべし。松壽外ありて、賊臣、防た、生、指、内、ありて、
 給事、せ、中、婦、君、め、し、王、女、侍、母、子、と、害、せん、と、謀、り、ま、さ、せ、し、れ

成、避、れ、小、儀、あり。その、み、い、う、お、ゆ、り、ん、と、信、中、に、密、語、ま、う、せ、は、寧、王、女
 と、さ、さ、り、なり。康、夫、人、給、ひ、て、ま、さ、り、指、ハ、さ、さ、り、か、妹、な、れ、も、母、あ、り、義、に
 あり。ま、う、れ、小、按、司、媒、始、て、良、縁、を、結、ぶ、ま、こと。ま、う、な、れ、妹、が、儀
 俸、な、れ、生、の、指、ハ、さ、も、あ、り、さ、や、と、い、ひ、り、て、え、え、り、ま、入、ハ、さ、さ、り、顔
 う、ら、顔、め、い、う、て、ま、さ、り、指、ハ、さ、さ、り、人、小、歸、ハ、せ、あ、り、の、う、入、ふ、こと。ま
 推、か、し、う、ひ、を、夫、人、國、許、を、め、て、説、論、し、何、事、も、王、女、の、お、ん、あ、り
 かん、ま、ま、り、て、美、引、の、へ、じ、と、可、嘆、ゆ、す、り、て、領、語、さ、し、て、毛、國、許
 ハ、退、か、し、詰、且、首、里、に、到、了、て、松、壽、に、縁、由、を、告、げ、し、婚、縁、既、に、整
 ひ、か、黄、道、士、吉、日、に、成、り、し、に、潛、中、の、松、壽、を、中、城、に、入、り、て、女、殿、の、侍
 候、く、王、女、夫、人、小、見、え、し、ま、さ、り、の、夜、生、の、指、と、婚、姻、を、さ、り、行、し、酒、代、酌
 壽、を、述、る、を、ど、い、夫、婦、ハ、一、睡、の、愛、と、い、ふ、結、び、あ、へ、し、て、その、曉、ふ

春記多長月賣書末史由



陶松壽
浦添山子
鬼蛇

本言曰引月無尾龍也四

春言曰引月無尾龍也四

三

五ころれ。遂に婦とてびよりのも添て彼天上の牽牛織女も歳一度の
 ああせのあれど。これ一夜の添助が。あふ別れのしじりあて面をあらさ
 はしなると。陶松壽も真経も。輝く忠義の為とおひひ高き隙さう。十
 ころに遠離つ。恩愛いもう濃中りあて送よとひ高き隙さう。十
 あふり成行る。婦とあふ人迄くわりのひりて。藤下某生真説中婦君
 子やけけひるののりりやすれとて。しじり
 利勇と共通し。二月飽として。美少年成夥後宮お養ひつ。世の
 機を省と。その為作飛燕三宮成乱とふあふ。はの光明千人の垢を
 播ふ似る。かく情慾の恣不すれど。よれ年の浪むり堰と。ひらふ
 術なう。十あふり七十年の春れ梢のかりと。姿の花の経衰へく。
 秋やふる想ふられ竹の。よそらふ人をやとく。五十ふ近くまりに花

と。種ふる。言まひし。あうれふ尚寧王と。その性随弱なる。い
 老われ。民の訴をやく。倦く。國政を。矇雲利勇に。うらは
 控山を事とすれふ。今茲のいよりの衰成あて。文後の古え
 のと。おくやありけん。有一日中婦君と對ひく。つが夫婦過世あ
 て。男児を。つが。齡既ふ六十ふあふり。ねれふ。とや。世嗣成定
 三司官ホが。諫も。ぐん。れ。とて。別よ子もあふ。は。王女
 と。珠を。あひ。を。懲さん。あふ。中城へ。閉籠て。よ。の。年月を
 行る。彼も。二十あふり。あや。な。ん。す。ん。今。の。免。さ。へ。た。附。あ。し。
 往よ。毛國。再。が。や。う。世。し。は。理。あ。れ。が。王女。成。成。あ。り。あ。ふ
 こ。そ。ま。う。や。え。あ。う。と。れ。か。れ。と。宜。り。を。れ。を。中婦君。眉。成。聲。あ。王女
 の。世。ふ。出。る。ん。の。年。耳。希。ひ。け。る。か。ら。いと。喜。しく。け。れ。し。と。く。も

ころのたまふ歳このとの又またより身みの重おもれをおげえ侍まを典てん薬やく正せいなりと
 も全く懐胎くわいたいするんとい定め候まをころれ付つどふ産うれ子のうれ
 ありとる。つらふもあひ侍ま。當そのと初はつ蒙もう雲うん國こく師し。相あ相あし
 王子おうし誕生たんじやうありと。とまじりした。とかく國こく師しも同どう定ていめ大臣だいじんもさえ
 多おほへしと實まことに中ちゆうに回わい答たへく。王おう良りやう改かいて次つぎの日ひ蒙もう雲うん招まとあし
 中ちゆう婦ふ君きん潜ひそと胸むねをわたり。蒙もう雲うんをかくその意いはひく。席せきはす
 りてまらとまじり殿でん下かおん仁にん慈じぬくして寧ねい王おう女によの身をみおほし忘わすれ
 せ舊ふる田でんのてく世子せうせいとしまらん。理りふ於おてあつれべつれと國こくのあ
 の甚こくし故ゆゑいふゆとなれ。中ちゆう婦ふ君きん有あり多おほひて臨りん月げつ既すでに近ちかづ
 れるなり。蒙もう雲うん年ねん孫そんの祈いの念ねん空くうに胎たい内ないの正せい子し權けん者しやの後ご

みては、と故ゆゑに氣き多おほく生な平へいあがりあり。とてみりて人ひとの
 胎たいのありをあるとみ。此こ度たび誕生たんじやうの御ご子しの疑うたがふべくもあはぬ。王子
 あく在あるとも。とてし経きやうを付つけりて。只ただ今いま世よ嗣しを定さだめあり。後ご悔かい
 その詮せんなるん。欽きん加か楠なん王おう女によをまじり。世子せうせいとしまらん。天てん孫そん氏しの
 正せい統とうと。この時ときお終しまむひなん極ごくていひかされり。あはあれと彼か寧ねい王おう
 女によの殿でん下かの正せい子しもあはぬ。實まことに毛もう國こく丹たん花生かへんなり。廉れん夫ふ人にん中ちゆう
 へつれざる以前いぜんより從しゆ身みとらなれば毛もう國こく丹たんと諫かん入に足あは彼か逐しやくふ
 密ひそ通つうし懐胎くわいたいといく程ほどもあく殿でん下かよりあはれて。國こく恩おんをそく。子しを
 とせよ。誇こほり縦しゆう天てんを欺あざむ。この蒙もう雲うんを欺あざむや。か。是このあを
 毛もう國こく丹たんが面おもてを犯おとして諫かんく。王おう女によの身み非ひに覆おちひ。あは
 が子こなれ。い。あもして。の國こくをまじりせん。その奸けん計けい一朝いちぢやうのあ

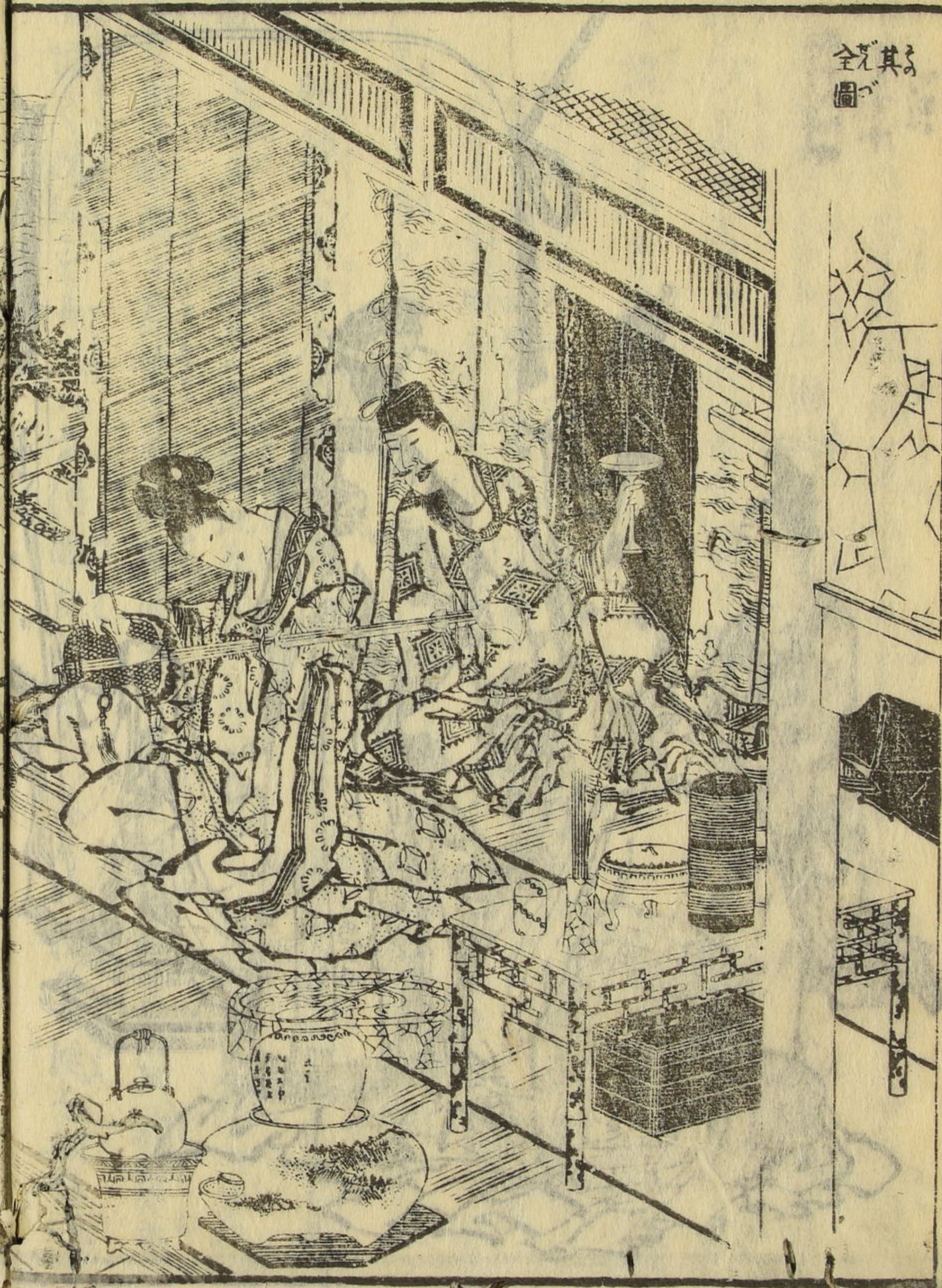
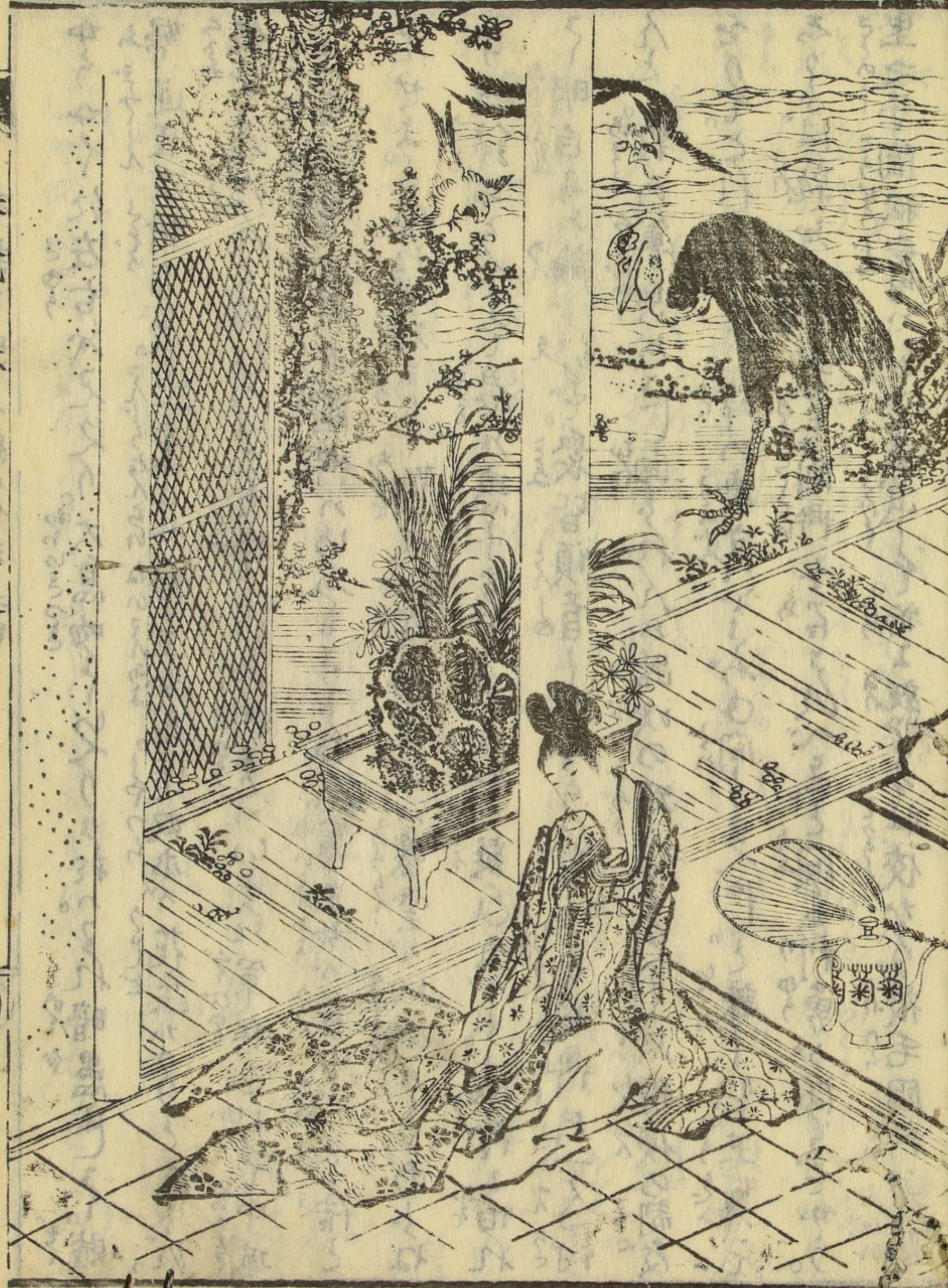
本説白雲片紙卷之四

あふねど殿下へ一点曉あつて王女を世嗣としまふく君の物の
 國神怒り先廟受りてして災々降し珠を奪ひてことを妨
 まひりて。實道とてやふ。多く措きおとすとも明白あらはし
 びして。誦くくわに秘されど今日り一言と惜みて告ぎて衆
 やとく大事故候を。その餘のゆゑ。さうさおめいし人じ
 とは女命り再啓されば中婦君のらら驚きとるおりして判勇ホ
 と面をおし。こゝ不思議なるみびきりのお。寧王女を毛國丹
 が花子あてありけれとい。神まひて誰うのあらん廉夫人の賢
 がほたる。毛國丹が忠臣りせれ千仞の海と測れとも量がとるを
 世の中れ人の公の底ありとて音振と。當下判勇ハ膝
 をすくく。矇雲に對ひ國師の明察ハ疑わぬのつひと。

子推後れすひて後と毛國丹も世の議論を悼みて
 へまふ彼り王女が世まんと討殺りのねがは區とせ十年
 あり。こや二昔お近き月日。こははは過せんとしやその
 逞しん奸智あつて。とて謀叛を自どりたれいとおぼつたれり
 たり。といりせもあへど。矇雲儼然と形をあらたれ。こハ南風原乃
 親方判勇。こもえんこ毛國丹が謀反精文ととりとも。いまこ氣こ
 顯せられ。それとね迎と。執槍するに憚りてなり。亦彼が不るは宿
 望全く果しおと。とくも。廉夫人宮中へ出されて後ハ毛國丹
 日夜潜むれて。漁樂お耽れをりて。遂お憚りて。事ハ言せせも。
 君王既お老るへハ。世を辞し。まあお終りのなり。あうねを往ぬ彼り
 りて王女の傳じ。後亦王女と廉夫人を。國丹お預りひり。これ

盗人の糧を齎かごじし。彼が世に憚りて中城殿へあふべとらふ。
 人よ疑はしとてなるが、実らずとありぬ。流るる人となとあごき。
 説示せん。利勇のいふ。呆はるるおりら。按司黄帽官不至るま。
 驚は惑ひく。所をあらふ。尚寧王と。緯の縁を貸て呆るる。
 半响むりの。手とりて。頻ふ加えつ。只管に嘆息。廉夫人毛國丹
 か。隱悪。が。國師のいふ。ごう。な。その罪五逆。不當なり。さるお。
 王女。國丹が子なりと。何をりて。證據とせん。罪の疑。死の刑を。
 お。は。さ。ら。ふ。び。や。と。宣へ。蒙。雲。苔。殿。下。慈。悲。の。制。度。を。り。て。人。
 か。く。く。し。く。罪。の。り。と。願。く。一。面。の。鏡。を。貸。す。彼。ホ。か。深。の。る。
 体。を。ら。う。く。お。ん。疑。を。散。り。ま。ふ。ん。と。ま。ら。ひ。あ。ぞ。王。息。ひ。と。聽。て。里。
 之子。不。仰。て。大。さ。や。う。な。れ。鏡。を。さ。り。ま。し。し。これ。を。中。城。の。方。

殿の畫柱お掛はし。あへ。蒙。雲。や。を。起。て。鏡。の。
 歩。ま。り。の。つ。ま。ら。ひ。さ。う。貧。道。目。今。千。里。眼。の。法。術。を。り。て。國。丹。を。
 か。隱。悪。を。照。し。し。り。べ。足。は。これ。國。王。宮。裡。お。あり。と。い。不。昧。玻。璃。の。鏡。を。
 等。し。暗。を。定。めて。尙。せ。し。と。ま。り。し。果。く。鏡。を。對。ひ。加。持。さ。る。さ。ら。の。遍。
 君。臣。一。奇。これ。を。さ。ら。み。且。て。鏡。の。面。赫。奕。と。鮮。明。な。ら。う。明。月。の。
 目。弁。れ。が。ご。く。世子。廢。殿。の。後。堂。隈。な。く。う。の。れ。同。毎。く。も。む。し。う。か。
 ら。れ。荒。ま。ら。れ。時。ハ。九。月。の。上。浣。あ。て。南。海。珠。お。暖。く。本。笑。答。華。丸。
 容。甚。耻。恨。煞。く。い。ふ。渡。鳥。枝。お。嗽。る。声。邊。に。し。梅。花。を。じ。り。て。白。梅。
 桂。樹。を。雜。れ。鐵。樹。を。會。て。冬。次。り。翅。の。緑。く。眉。白。死。を。麻。
 石。求。子。と。人。の。ゆ。ふ。子。を。石。求。讀。伊。石。求。子。莫。讀。史。の。諸。も。の。



中ら中くに左右にえ入り。大息吐きしりたり。され。これ暗愚也。賊
 婦逆臣は折ら。三十年來寧王女を這奴亦が花生なりとあるに。
 位をえ入げんと思ひつるこそ悔しけ。利勇はいと軍兵をおて中城
 へ走向ひ。廉夫人毛國典のりものもさう。寧王女が首を削ぐ。倍と
 見えよ。といれ。たさく仰れ。智あるのハ。矇雲が幻術なり。あね
 り。鏡小うつて。君が惑し。あふさるか。と疑ひるが。威控は怖れ
 しく明白め。論じ。皆煩首して。まう。毛國典。一人。討
 んとて。夥の軍兵。は。向ら。ん。踏次の煩ひ。る。只。穩便の制を
 をりて。これを召し。緯の虚実。と。ら。ひ。同し。多し。と。諫。か。王。さ。て
 あり。は。孰。遣。毛國典を召し。へ。と。同。利勇が。は。さ。か。ら。
 里之子。陶松壽。ハ。公。さ。武。物。孰。る。社。交。なり。彼。毛國典。
 の。身。子。な。れ。も。その。不。我。を。憎。て。や。父。く。これ。疎。て。常。よ。臣。が
 家。お。来。訪。と。又。提。牌。全。直。國。吉。ハ。國。典。が。妻。新。垣。が。從。身。なり。此。の
 故。あり。て。ふ。く。國。典。ハ。恨。れ。は。松。壽。潛。小。臣。小。吉。さ。る。り。あり。今
 この。兩。人。ハ。計。畧。を。授。て。中。城。へ。遣。り。毛。國。典。疑。ど。して。ある。と。
 と。啓。され。尚。寧。王。さ。ハ。松。壽。查。國。吉。に。密。謀。を。傳。よ。と。仰。れ。お。
 利。勇。ハ。懸。て。件。の。人。を。用。室。お。招。き。は。して。仰。の。越。え。え。あ。り。
 さ。て。し。あ。り。毛。國。典。中。城。を。出。ら。ば。伊。辺。お。は。り。お。托。す。途。より。引
 入。り。松。壽。ハ。世子。殿。よ。走。り。て。王。女。廉。夫。人。ハ。刺。殺。し。首。を。引。提。て
 ぬ。り。来。よ。又。查。國。吉。ハ。直。よ。毛。國。典。が。家。お。推。よ。せて。這。奴。が。妻。新。垣
 と。その。子。ども。を。搦。捕。べ。如。勢。の。兵。士。ハ。捷。徑。より。陸。續。お。遣。よ。り。
 ね。一。世。の。忠。節。の。付。あ。り。さ。く。ら。ら。ま。り。と。い。と。う。せ。む。松。壽。

查國吉一議
信録
二重
の條下
ええ

查國吉一議も及ど領當して従者ハいと寔馬。馬上なる小正
門より走り出。二誘導ハ御並べつ。只管は嘆息。既ハ従者
の後より我をえりて松壽竊中ハ查國吉ハ嘆びと。牌金
牌金の查國。何とうと。君王ハく。矇雲ハ幼術ハ惑され且中婦君
注用して。佞人時をゆ。二細既ハ乱と。王女を我。忠臣を
害せんとい。國の滅んる且夕ハあり。吾僭官卑く。禄微ハく
これを救ひほ。却て利勇に役せられ。不狂人も走る小使。あ
豈嘆くべ。る。密語ハ查國吉答て。以切と。されと。豫て
志を。矇雲ハ利勇ハ佞媚ハ。か。れる。の。あ。ん。と。こ。お
も。毛按司。國。ハ。直ハ。縁由ハ。彼人ハ。告。あ。じ。と。諸
とも。小世子殿ハ。権龍村。と。引。り。潔。く。王女。廉夫人の。お。ん。目。前
ふ。陣。設。を。心。く。あ。り。と。い。と。勇。ハ。回。答。ハ。か。松。壽。ハ。こ。こ。め
こそ。と。う。ち。息。次。つ。あ。じ。後。者。ハ。付。あ。い。ぬ。ハ。馬。の。足。搔。を。早
め。中。城。を。望。ま。く。と。せ。去。ぬ。

第三十九回

浦添山ハ國典使者ハ達ハ
中山府ハ利勇忠臣ハ殺

毛國典ハ。い。ま。と。利。勇。ハ。計。較。を。志。ハ。君。王。好。ハ。王。女。を。世。子。ハ
ま。ん。と。て。矇。雲。ハ。利。勇。ハ。の。執。權。を。集。合。ハ。今。朝。ハ。密。書。ハ
ハ。陶。松。壽。ハ。出。け。り。し。う。ハ。後。飲。び。て。魎。ハ。縁。由。ハ。王。女
廉。夫。人。ハ。告。進。ハ。せ。緯。の。虚。實。を。あ。ん。ハ。從。者。ハ。首。里。ハ。浦。添。山
里。ハ。と。て。あ。り。ハ。け。り。が。と。う。ハ。首。里。ハ。中。城。ハ。の。間。ハ。浦。添。山
の。麓。ハ。て。兩。人。の。使。者。ハ。達。ハ。當。下。松。壽。ハ。查。國。吉。ハ。と。う。ハ。



毛國丹が身とれをいそぐ。声をかり立毛按司吾倚おん使と乗り
 つ。君王の仰あり。さほまは國丹忙しく馬より飛下り道次ふまて待
 不どに兩使のほより近く騎つけて。鞍坪小威儀のいぼひ君王の仰
 あり。此度王女廉夫人に召えし。舊のごとく。王女を世子として位と仰へ
 ろんとたり。これめよりて。大臣諸按司と召集合て。奉と議したるふ
 ごと。さしくさゆりめんと相速まは毛國丹謹むらうけめり。さす
 りあふさゆりしが。只今首里へあはるふ。さにておん使へ行めひぬるこそ
 幸なれ。誘えんとしふ。その氣色満面お笑と金づく。化念あへんは
 かに松壽査國吉のいと苦しくて。利勇が計救とあふせまはやく
 とどひかか。後者おまはえんを憚り。明白おえり。さ。い。吾倚
 の是より直中城殿へありて。王女廉夫人よ傳進せよと仰あれ

ハハハもあひぬりさしとらん。國辨やう。ちうぶ詩をも入と回答て。
馬小閃りとらら踏り東西別とつ。間五六町由た隔りし比松島
查園吉りろとも。鞭を鳴らして追蒐ふつ。毛按司さかし掃て
まへ。まほりふべたるあり。とやびうくれ。國辨雲引戻と暮島地
馳奔ともふ。是彼の後者へ既ふ違ふ後とら。この隙は兩人の
壯談。時雲う鏡中の幻術中婦君利勇が討殺あらも。國辨
ふさやと。又いふやう。緯既ふかくの如くあかぬ。按司首里ふ鉄丸
まの。忽地首を喪たへ。とやう引へして世子殿小権義り忠
義の士を招れ集めて。時雲利勇とらら滅し。王女と世よまへ
し吾侪外ありて。反間の討を行く。逆賊を滅さん。の躰
ぢぢとへくし。猶豫もあらう。といと信かう。そがせども

國辨のをらら掉。の辺ホ従者中。そとて。めくびとれと嘆び疾
火急の危難を共に。あむら。あは日月地ふ墜と。國神も人のほこく。人
憐あふ。とおほし。あらあれ罪なれば。成いひとらん。あもせよ。
世子殿小権龍討を引りて。防ぎ戦る。王女の子として父と挑
つれ。臣として君を凌ぐなり。されとらん。罪なれをいひとかんと。却
叛逆の罪人となり。常人。常言ふ。忠臣の犬とある。乱離の人と。なり
そどいへ。うらあ。足る死とべた日。形。汚。い。忠義の志。後
こころの。潜小玉女廉夫人を落し進らせ。と。暇あ。この妻子も。棒
の鉄を告あして。禍を避はさく。家子鶴。十四歳次男亀。八十二歳
なれ。西東をも。とやあへ。父が孤忠の若く。をちひやう。寧王女乃
おんる。あ。同胞。命。捨。よ。し。と。皆。おひ。ね。と。回。答。して。ゆる。氣。を。と。

春記...
長月...
...

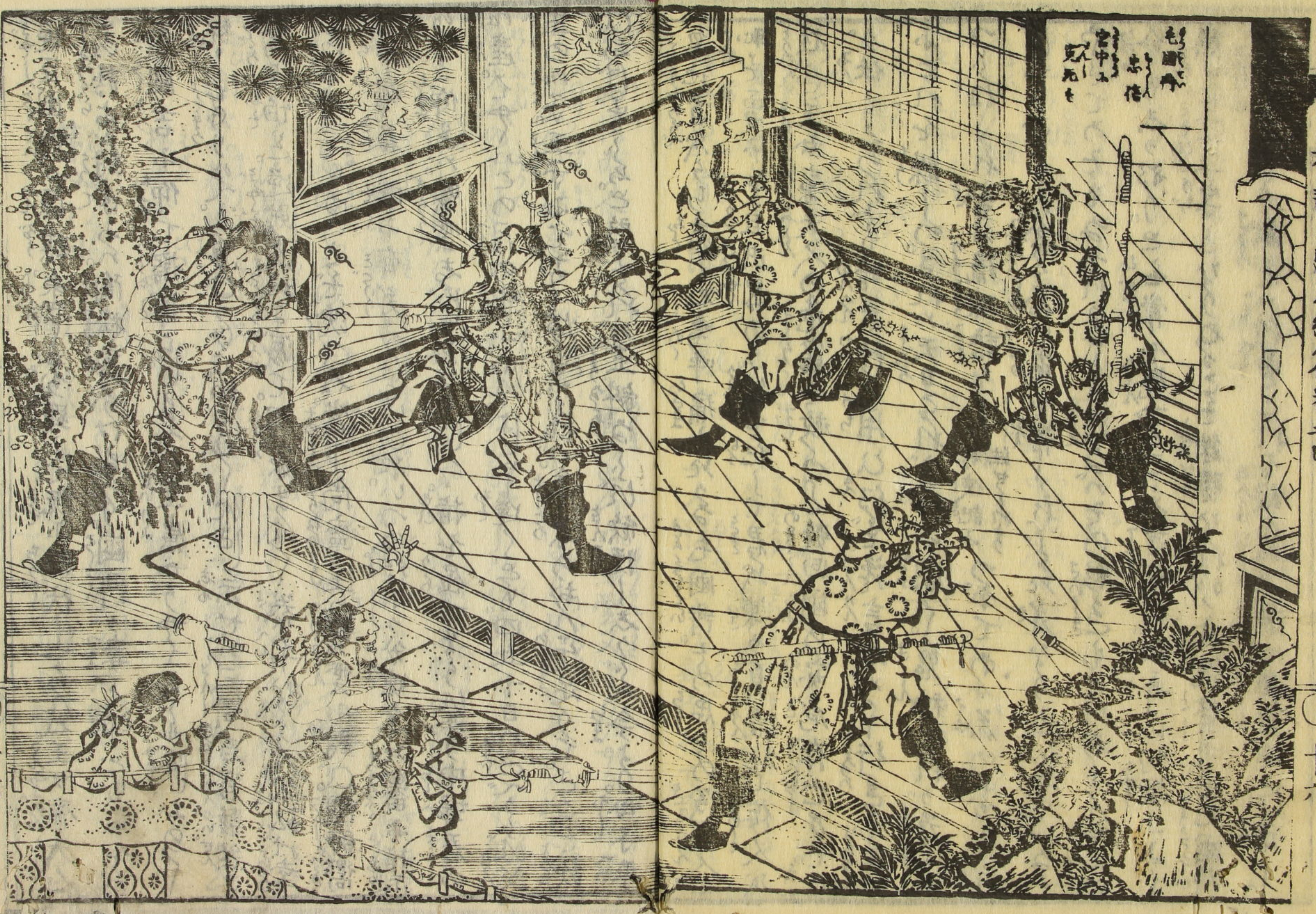
なうりけり。活処は後者ホ。東西より喘々走り来り。間近くありし。松壽查國吉ハ。ぬきび練れり。毛國將と。遂に馬の手首を東へ引けり。首里に投て弛去。查國吉つくと目送りて。陶松壽みらふや。毛按司の寔ハ蓋世の忠臣なり。され彼人乃通家と云は。年頃の恩義いと重し。命を捨くその子ども。鶴亀ホ救つをじ。ほ迎ハく中城殿へ入りて。王女と廉夫人を落し。便宜の地。お潜せられし。と密語ハ松壽微笑く。ほ迎ハ干ハあう。され血氣の勇小と申りて。かましく命ハ預んとおとせ。救ふべくを救ひ進せ。救ひごとくして己かん。薪を抱て火を救ひ。湯とりて沸ハ。困るも。勞すれのとめて切らんや。狼狽なげなれば後まもも。胡懸なる人。このハ查國吉サも。あんと大お怒り。波ハや命を。とて。

言ハ兩端おあるとおぼし。かくハ王女のう人も。又おりとは。されハ。とく。とく。おとつ。めて彼を助。これを救ん。難義なり。所詮汝。此処。あて。うち果さん。おつ。と。い。と。ま。れ。か。け。も。あ。と。と。氣。入。る。お。れ。を。松壽ハ此ニも。醫として。莞尔と。牌金を。とて。かくハ思慮。と。は。邊。と。勇。とりて。恩お。答ん。と。ん。これハ。智。とりて。忠。を。竭。と。り。の。なり。と。し。機。お。臨。ま。ま。お。煮。と。る。お。あ。と。と。ハ。嚙。雲。利。勇。ハ。欺。課。て。王。女。を。救。ひ。た。り。か。じ。し。機。密。ハ。こ。と。再。談。と。て。く。は。じ。ば。迎。と。つ。れ。と。智。果。して。何。の。益。あり。や。と。説。論。ハ。查。國。吉。忽。地。お。面。を。和。け。あ。う。り。と。と。應。と。は。間。お。後。者。ホ。走。る。お。つ。れ。ハ。送。り。道。を。い。と。び。て。美。里。と。浦。添。の。間。の。捷。徑。お。馬。と。ま。つ。て。飛。ぶ。似。お。走。り。され。ハ。後。者。ホ。ハ。又。後。と。り。不。頼。按。司。毛。國。將。と。重。ん。忠。義。お。控。と。命。も。終。に。脱。と。ぬ。時。運。を。と。と。く。ハ。

それもあまのくにに。これうら言ひ死出の鳥。八千八声説はとて。とれ場されぬ濡衣のしるも。若くは世の中。乱れとてさる忠臣を不忠とも不孝ともいふ。其のこの土もさるりて。悪くあをうら滅し。王女は世よまはせらめ。とてうら一つお唐鞍のうらり。名入惜とめ入も。鼻もぬ胸下月毛の駒も。細短くえりて。中山府へありつ。正門は馬乗放ち。あり孰つれ。龍宮城の正殿へとす。と入れを待設くも。夥の筑登之帷幕を撥く。跳し出鎗閃して左右より。膳ごと刺徹せん。國將その鞆を握りさめりて。

つがてある。花のあのはやとて。けさや。とて。そのもるはれる。つがてある。花のあのはやとて。けさや。とて。そのもるはれる。と辞世の一首を派し。も果ぞ又一人後方より。劔を抜て走蕘り。

忽地首次らら落しぬ。嗚呼痛し。たも毛國將。その忠その後古人。恥し勇みして。且武界あり。顔を犯して。君が諫め。真言して。侮人な枝。王女廉夫人の危窮を救ふて。数回國の安危存亡りて。已か仕とあつれども。暗君終不用ひ。びと流言あがり。行きて忽地ふこれを誅しつ。されば天日。これがあふ。鬼神。これがあふ。泣つね。され。余ハ流球語なり。聘使記。つがてある。花のあのはや。はやとて。うら。合。花の露と帯。され。た。なり。といふ。は。は。や。とて。うら。その。消。な。い。その。彩色。も。これ。あ。ん。や。人の命も。あ。り。お。り。と。常。を。觀。する。こ。う。言。葉。の。和。舟。の。句。調。お。よ。く。稱。て。三。十。一。字。と。な。り。ぬ。る。こ。と。殊。勝。な。れ。か。く。は。筑。登。之。亦。毛。國。將。が。首。と。と。り。と。獻。是。ハ。和。勇。こ。れ。を。銀。の。血。小。装。て。群。臣。お。は。し。示。り。



忠信
宮中
死

春
長月
續
卷之四

村
言
長月
續
卷之四

十六

逆臣國將が隠謀衆心く事顕して既小誅伏しとらんぬ王女廉夫人
 其の誘ふが討ちあへ陶松壽らけり。國將が妻と子どもをい
 查國吉小仰て搦捕らしり人の聖慮やうやくこめ安しおのく
 祝しちりゆへと學びりて。おとくくにはし示せば三司百官駭然と
 驚と怕と逆賊立地は滅て邦家ましく泰平なるん公私に幸
 これ小やたるゆへしとぞ映ひぬ當下尚寧王の蒙雲小對し國師衛
 中婦君の既お有るなりといひた。いつの終わう分曉るべし審田指示
 ゆへと仰とバ蒙雲あじらち案じつ指を屈てまうひ申う中婦君の
 産をやハこの月の中小あり。はや逢くとも四五十日ハさへくは誕
 生の心子王子あてあはゆとなれハ年暮のめんを足りて。ここを飲
 ひおぼさるめと啓されハ王斜さるは欣悦し。あうふ今より母子平

安の加持あぐりとて町學小宣つされハ蒙雲又まうひ申う平産の
 おん祈の仰を待ばして年暮これを進行せり只忽おあがれと王女
 廉夫人の討ちなり。陶松壽ハかひぐりた壯夜なりといへとも彼のこ
 ふらら任り多らんハな月おりこほし。そ中利勇小駭の荒登之坂に
 副らと松壽を助けり王女を討ちめ多しとまうひふと尚寧王
 けおめと白心みく。そのは右と仰とバ利勇欣然として命を直示おは
 ちまへんハ歡會門のほとりあて鏡ごろくさうくと投被馬上あて腹
 帯結びて墓地小走りおまハ早雄の荒登之ホ紫中官あ後まうとて
 おのく械器引提つ。喘く追ひ續ぬ。

第四十回

涙を伏す松壽 廉夫人を撃
 神次頭て白縫 寧王女を祐

里之子陶松壽捉牌金查國吉ハ浦添山の麓まで毛國典と目送
 駿馬小白泡をばして中城へ馳ゆ。行ふ後者ハ遠く後道加勢の兵
 士と申しまうご到らざり。この隙に藩をへり。查國吉ハ毛國典が家へと
 入り。これ松壽ハ世子殿へありて後門のところで馬より下つと
 門内へ潜り入りて。峰門もせめて園の木をを遠りつ。奥へゆく。奥の
 小室に王女廉夫人ハ桂華殿の孫廂小桂の乳をもち。暗くおぼせし。が
 緯のる作いと蕭々めて。生かす只一人侍らう。忽地より外面へ
 こゝろいり。松壽がまゐりて。啓され。同小松壽ハ中へ下り。下り拜
 伏し。言語はなきて。生かす涙をりける。廉夫人。貴しと申す。あり
 んと。おぼせし。か。近く。生かすのばし。て。宣ひ申す。めづらう。好り。陶松壽。汝
 生かす。と。誓。姻。せし。夜。只。一。ひ。え。つ。る。の。と。申。て。駈。の。年。次。に。し。ら。ん。が。

見ゆ。王女もつら。身も。面。忘れ。年。暮。恋。し。ど。も。良。人。な。れ。ば。こ。も。生。か。す。
 の。と。や。足。音。も。て。も。あ。り。つ。ら。め。さ。も。連。忙。し。く。あ。る。の。と。し。と。く。こ。も。
 り。と。な。し。都。の。い。ろ。ろ。分。野。小。や。君。王。ハ。い。ろ。安。寧。に。在。る。と。同。い。
 り。入。バ。松。壽。中。り。中。に。此。を。擡。賊。臣。宮。中。再。充。満。て。世。ハ。と。や。季。子。な。り。
 て。の。を。じ。め。より。ま。う。せ。ぬ。此。こ。の。尾。ハ。箇。様。と。し。と。矇。雲。の。鏡。
 中。に。奇。怪。の。影。を。ら。う。と。王。女。ハ。夫。人。と。毛。國。典。が。子。な。り。と。い。ひ。し。こ。
 松。壽。と。查。國。吉。小。仰。す。國。典。を。召。し。ま。う。と。これ。と。浦。添。山。の。麓。に。
 て。行。の。ひ。利。勇。ホ。が。計。較。を。告。ぐ。直。ふ。門。入。り。の。と。諫。め。國。典。ハ。
 死。を。決。し。て。首。里。へ。あ。り。し。り。一。五。十。次。父。え。め。け。查。國。吉。ハ。毛。國。典。
 が。妻。と。子。と。も。と。救。ん。と。て。その。家。へ。と。あ。り。の。利。勇。ハ。さ。う。の。妖。術。を。逞。
 しく。矇。雲。も。吾。儕。を。毛。按。司。の。間。者。と。な。す。直。に。中。城。殿。へ。送。

由なり。王女と夫人のおん首次御守され捷徑より加勢の兵士は
 ぞし。といへり。人おあられぬ間。便宜の地へおん侍はるりなり。講
 の人といそげし。もうせ。廉夫人の王女生の侍と面をわい。こんとも
 いうゆ。とむり。に呆れ。とむり。意もえせ。とむり。涙を拭ひ
 の何。いうなれば。牙。あ。あ。あ。天神地祇。お捨。とて
 むひ。も。う。け。ね。濡。衣。へ。胸。の。ひ。ご。こ。れ。中。婦。君。の。妬。之。角。組。の。稚。弟。の。ゆ
 とい。は。と。る。濁。江。の。ふ。く。れ。伎。倆。と。曉。め。ら。せ。と。王。女。の。心。子。よ。あ。じ。と。て。殺
 せ。と。仰。る。父。王。の。心。謀。こ。も。意。を。ひ。ね。と。て。も。か。く。て。も。脱。走。ら。れ。命。多。り
 せ。ば。つ。ら。身。ま。ぶ。り。に。仰。る。紅。木。の。赤。れ。紅。を。見。せ。侍。人。松。壽。寺。の。侍
 いく。も。ゆ。して。王。女。を。助。け。進。ふ。せ。よ。と。て。声。を。惜。ま。泣。ま。り。理。る。れ。と。理
 とも。い。ひ。う。も。く。夫。婦。と。ま。ぶ。に。慰。め。ま。う。せ。と。寧。王。女。も。双。眼。は。涙。を

命。と。母。の。こ。い。う。て。殺。さ。せ。と。罪。な。れ。を。い。ひ。と。う。ん。と。て。脱。走。し。果。あ。れ。ば
 を。懸。さ。ば。不。孝。の。う。へ。の。不。孝。な。り。毛。國。丹。が。死。を。極。め。て。首。里。へ。と。お
 とい。は。れ。志。す。れ。も。か。い。こ。も。あ。え。た。れ。恨。の。あ。じ。歎。と。ま。あ。る。ま。う。た。も
 是。期。し。て。侍。り。とい。ひ。勵。し。て。う。ま。く。お。騒。ま。さ。る。氣。入。ら。れ。い。松。壽
 と。ま。あ。り。不。明。し。て。声。を。あ。り。立。吟。判。の。お。い。し。ま。せ。と。も。と。ま。と。く。婦。女。子
 の。見。識。な。り。死。さ。る。代。孝。と。お。も。と。あ。や。賊。臣。を。滅。し。て。民。を。救。ふ。の
 王者。の。孝。心。再。て。討。ち。の。大。勢。を。向。ふ。と。ま。い。は。し。て。脱。走。さ。る。ん
 り。ひ。か。ひ。ま。し。と。諫。つ。賺。し。つ。夫。婦。と。ま。ぶ。し。く。扶。掖。て。後。門。より。芝。原
 ま。わ。り。と。せ。ん。と。涙。を。ぬ。ふ。こ。の。お。ん。形。容。あ。て。の。便。な。し。と。せ。ん。か。く。せ。ん。と。て
 松。壽。寺。且。く。尋。思。し。つ。究。竟。の。ゆ。こ。も。あ。れ。ら。ぬ。姑。場。嶽。の。山。神
 参。り。て。姑。場。勢。田。富。間。伊。集。嶋。袋。の。里。人。ホ。と。ま。ぶ。の。打。扮。し。て。御

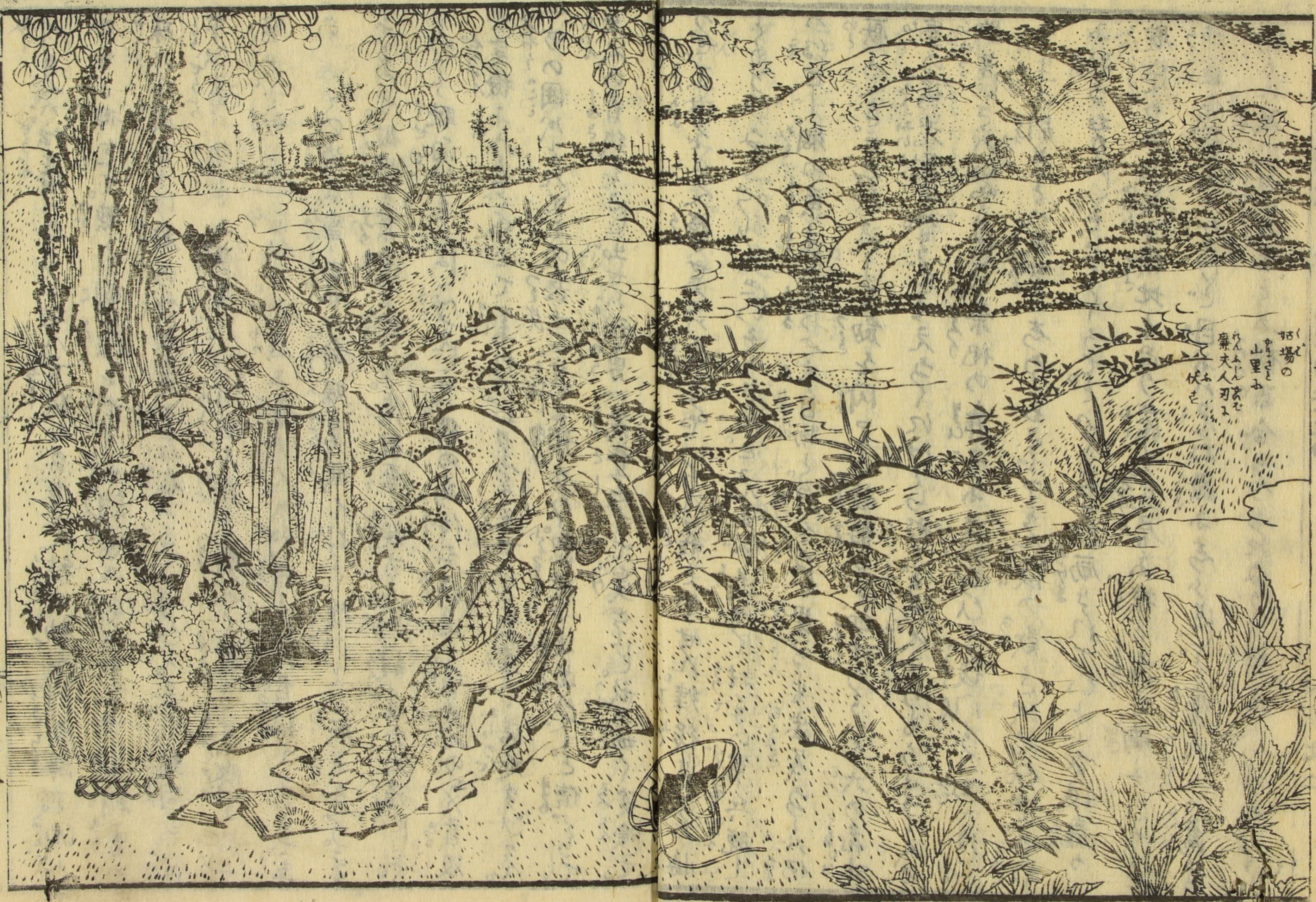
所近くおりの身つる。大御おそれる。これおん。つる。この箇様。て。廉夫人のおん供せん。若き若く。如此く。打扮て。寧王女の供せよ。と。い。大床お控られ。花藍をとり。おん。廉夫人。お肩。殿内なる。先王廟の木獅子をうち。王女を後方。主後四人。お祀のねり物。打扮て。投て。狂ひ出づ。抑。種々の舞曲俳優あり。太平調。長生苑。芷蘭香。天孫太平歌。桃花源。楊香。壽尊。翁ホの雅。樂ハ王宮。許さん。その餘。花索舞あり。花索舞あり。又拍舞。武舞。舞。花索舞ハ小童二人。以て。花をい。花藍を肩。廉夫人。つら。打扮。又。小童二人。金の。四方

小鈴を著。朱。奴の。長。左右。二。獅子と。種々の曲。甚。王女。この舞。打。是。又。拍子。以上。城。陶。姑。場。野。軍。馬。大。野。見。敵。羽の夜の。子。廉夫人もこの景。春。七

古巴樹斯
樹の名
傳信録の
樹の高サ
三丈葉の大
一して柿の
中一八九月
あまのち
音楽の如
一箇中
士と女と
りり

かう。と心ひききりて古巴樹斯漢名の樹蔭ふゆや白やよ松壽すうじゆの軍兵彼此いひひかり元満もとみちされの寧王女ねいおうのむすめのうへいと公きみめとはは海うみか首くびと剣けんて。討うちの子の大將軍たいしやうじんあえせまじ。あつぱ一方いっぽうの圃うらとりて。王きんぎ女にうハ虎こ口くちで脱だつ且かつまらん今いまさら躊躇ちゆうちゆこころいと雪ゆきもろかりた項かたをさし伸の。帝ていをうらしてこころ切きと。しつねむかりや花藍はなうらの花はなよりりり余あまある。松壽すうじゆハ阿呀あやと夜よても。うらめ妙たぎとびらうとも。夢ゆめもこころね世よの中ちゆう小孝女せうこうのむすめ箭婦せんぷを守まもる。君きみ真物まものハ在あね救命かうめいと陽ひかりり。防ぼうだ戦せんひ敵てきは首くびをさるされ。も。それる夫人ふじんを撃うちつ。切きる。うしてり。や。とむらみそハ寧王女ねいおうのむすめも。さもあや討うちまらん。さやせはじ。かくやせ。はじと公きみ一いつつ女むすめ定さだめ。子こ。腸ちゆう絞しやく。油樹あぶらぎの梢こすね瞻あまて忙いそ然いそり。廉夫れんぷ人ひともえりて。あめめし。何なにどてかく憶おもひ。され。こころあも物ものハ。

つせ。王きんぎ女にうをさへ撃うちつ。忠ちゆうとやいらん。我われとやせん。辨べん後ごとてハ悔くともうひ。し。りり。こころざらん。とん。近ちかづく討うちの軍兵ぐんひやう脱だつし。ほせ。網あみの魚うしほ主ぬしハ妻よめハ大自物おほのちのぶつと。身みをさし果はらるも忠義ちゆうぎある。何なに厭いとふへ。と。心こころひ入いりて。劍けんを閃ひらきと抜ひ替かせ。四十よじのうへを六むの花氷はなこほり室むろの樞すう老樹らうじゆハ。も。ごええ。うにけら形かたち。うら人ひとも。うら。うら。人の胸むね苦くるし。さ。い。や。は。し。つ。祭まつり祀いの糸いと子こふ。ま。じ。ら。ひ。て。後あと門かどより。出でり。し。今いま生せいの別わかれとハ王きんぎ女にうも。あ。り。あ。さ。う。て。えん。後あとの敷しきと。成なりひ。今いま取とり。お。物もの。さ。り。し。そ。く。う。て。と。い。く。と。と。び。励げん。さ。れ。て。い。と。な。は。靡しな。腕うで定さだめ。な。く。又またと撲う地ちと。さ。う。流なが。尻しつ居ゐ。不ふ控くわうと。裏うらを胸むねと。ひ。つ。と。陣じん鉦かねを。さ。り。あ。い。は。け。と。目めあ。は。え。ね。敵てき。ふ。あ。り。世よ。と。廉夫れんぷ人ひとハ。高たか。く。取とり。の。尖すみ。ま。と。み。袂たもと。百ひゃく。合が。う。ら。あ。ら。な。く。襟えり。上かみ。へ。つ。と。ね。ら。



春の月夜

二

村言月夜

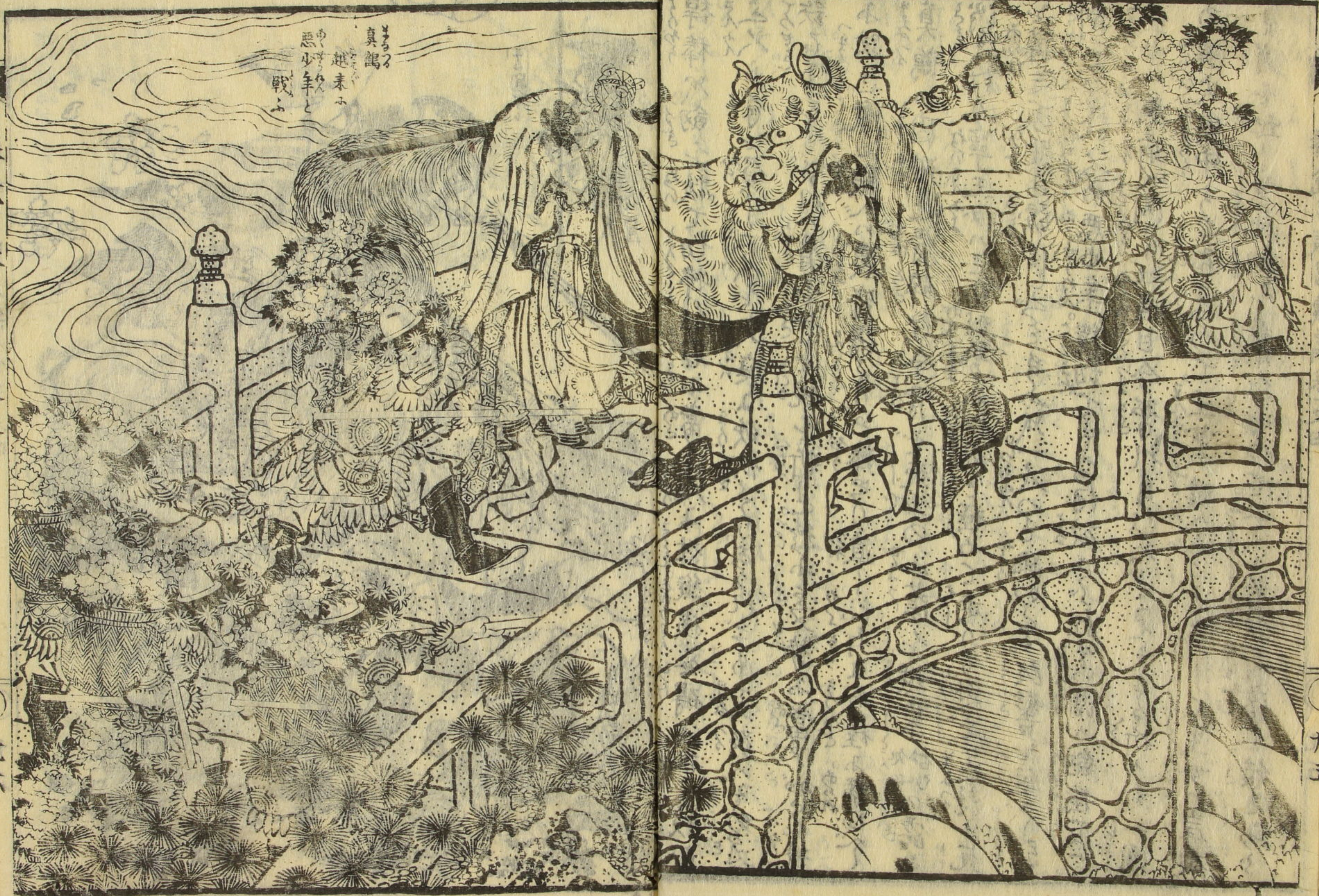
拓場の
山里に
おん夫人
の御
伏せ

所より松葉のうらみおん首級をとりて。袿の袖を引断離り涙を
 ともし押包て懸く樹蔭を走り出討手の氏ありてゆき。利勇ハ
 床几小尻をうけ敷の筑登之次左右よま。咄び入る。對面を當
 下松葉の雄さ小廉夫人の首級を抱き恭しく跪き某衛門ロハ一
 騎世子殿小馳向ひて矢庭小廉夫人を刺殺し。おん首級をとりてま
 め。その隙に寧王女ハ命婦真鶴をゆき。後門より脱去する。さ
 めよつて彼此を索遠る折る。南風原の親方。和勢討手の大将と
 ぶく。馳向ひまれば。笑えしう。律の為体を注進し。廉夫人のおん首級
 を実檢不入とて。やとてまねり。おん王女ハ。や遠く流延多しん。
 一方の圃瓜とれて。その兵士と某が預多り。忽地小追苗ゆき。と信
 夫人の首級をさし出せば。利勇ハ筑登之して受さし。取の如く実檢て。

これを首里へおろりのゆし。さて松壽小對うり。既小廉夫人ハ討
 たることし。王女の首とんが。るく。この圃とれ。じ
 王女ハ嚮小祭祀の移り。おん打扮弄童ホ。ら。難りて。間切を出る。
 と。おろりのあり。よ。て。このほ。り。な。悪。少。年。小。謀。を。授。り。る。
 その往方ハ穿鑿と。これハ且く。この知小。て。直國吉が音耗を。持
 る。油断る。王女と追蒐て討苗よ。と。隈。なく。指揮する。
 小松壽ハ。か。て。辞。別。と。又。姑。場。と。投。て。走。去。り。れ。か。は。し。は。ど。ふ
 寧王女ハ。さ。の。務。小。扶。掖。と。魅。弄。小。打。扮。て。主。後。木。獅子。なり。ら。被。た
 里の猿角。あ。ら。ひ。つ。姑。場。嶽。の。北。の。う。こ。然。末。と。投。と。落。る。ふ。
 諸知小中城。ハ。お。悪。少。年。小。錦。の。半。臂。小。糸。を。ま。し。て。ゆ。き。推
 取巻獅子。小。よ。し。の。糸。の。玉。その。國王。の子。と。偽。り。寧王女ハ。捕。捕。と。

賞錢ハ乞小仕とべし。と紫中官物の仰をらけ。迹の祭するるる間も。
 俄頃も物多く一花索踊の兄らまる魁て桿弄んせん。其の獅子は。
 貸せ。異口同音も呼びうけて金箔を振廻して打てか。
 且つハ寧王女は後方に圍ひ丁と受ていりやねん。獅子は牡丹の。
 落花狼藉を打て谷落し獅子の子おじに涙返した。左を撲地。
 投除れハこへ打たじと競ひうつハ方より打たばに獅子の真額を。
 打裂と半面あらうとまの落ハ布撥捨てて荒余とし予とせねと被り。
 踊被りれてこ止んや。その國ハ處とどくも。王女ハ捕めちしん。
 とハ獅子身中の蛆虫も。劍の弄れちし一奏んせん。可惜命を失は。
 ひそこあごと笑てまりられ女とおりひ侮りし悪少年ハ太小。
 怒り。さてもほづらほづいと。あれ打倒せと散動と。又閃き

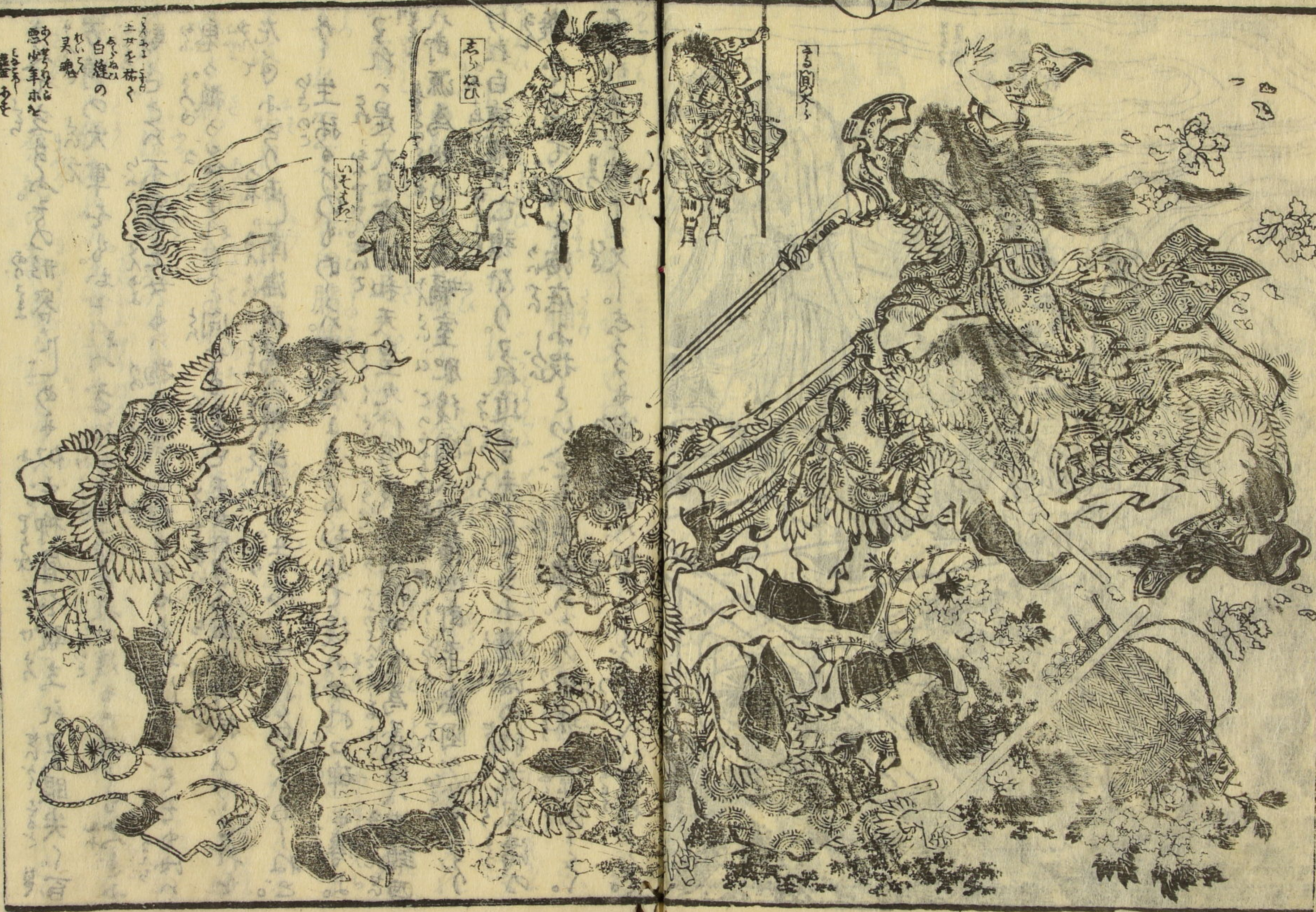
桿棒ハ劍を抜て切拂ひ右小當り左は柱縦横を碍小挑と戦ひ。
 二人身手を負し二人を矢庭に欲伏しり。あられさの落ハその身を。
 鉄石ハあらざれハ肩を打し腕を折し終らず又勢ハ當らがら株を。
 小踏き破と輾へハ裏皆得りと棒より直し乱打は打程小憐むべ。
 真鶴ハ肉破と骨碎け今宵を死出の山蔭を越ま本の露を。
 消しける。寧王女ハこの形勢ハ死と極めて走りも外にと生けるが死を。
 と憐むて吐き涙はじとまり一人つと跳かり又髪を脱ぎてし。
 倒せハ又一人の悪少年緋切てもる海放たれ生けるが劍撥取て。
 王女の胸前へ閃し吐き目今暫れ多しひねとこえる折ら一團。
 の燐火空中より花あらて王女の懐へ入りと奔り王女ハ岸破。
 と身を起し忽ち地劍を奪ちとりて二人ハ首ハ打落し信とふ。



真鶴
越未
思少年
戦ふ

藩元長月讀新編卷之四

藩元長月讀新編卷之四



さる間天

志らぬひ

いそた

三女を枯く
 白蓮の
 美穂
 中野
 豊年
 豊年
 豊年

かくてまゝふ。その形容どしめ似そ。柳眉を就まは星眼尖く。百
 万騎の大軍をも。おそれつゝ。たゞまきこなるべ。残るりのども。大さふ
 駭と。この不審王女。ハ物の憑き。おぼるとおぼる。そ。その海ハ
 鬼ハ。瓶ハ。名告れ。同。せも。果。と。王女ハ。刃の血を。押拭ひつ。これを
 左。手。お。さ。り。直。し。南。海。孤。嶋。の。賊。民。ホ。ホ。告。あ。す。す。れ。名。あ。の。あ。ね。ど。
 け。生。疎。り。の。も。あ。へ。耳。底。よ。ら。め。お。た。て。後。の。世。れ。口。碑。再。傳。よ。
 くれ。是。大。日。本。清。和。天。皇。九。代。の。後。胤。六。條。判。官。為。義。の。八。男。鎮。西
 八。郎。源。為。朝。ね。の。嫡。室。肥。後。國。人。阿。蘇。四。郎。平。忠。國。が。女。兒。な。り
 け。れ。白。蓮。姫。が。亡。魂。な。り。又。れ。近。曾。夫。と。も。小。渡。海。の。船。中。風。濤。の
 難。あ。つ。つ。て。身。を。海。底。お。投。と。り。そ。も。冥。魂。ハ。こ。の。琉。球。に。漂。泊。し。て。
 くら。に。夫。を。俟。と。父。し。志。ろ。る。再。寧。王。女。ハ。む。じ。ま。良。人。八。郎。ね。し。定。

一朝。値。遇。の。縁。あ。れ。且。く。こ。の。身。體。を。借。り。て。良。人。と。子。と。も。ま。た
 い。ふ。し。そ。の。創。業。を。輔。ん。と。ん。か。れ。ハ。王。女。ホ。し。て。王。女。再。あ。り。て。
 白。蓮。は。し。て。白。蓮。お。り。て。孝。女。と。節。婦。と。合。體。し。て。あ。る。時。ハ。王。女
 たり。又。あ。れ。と。れ。ハ。白。蓮。と。ん。今。生。活。が。あ。り。仇。を。報。ひ。誰。う。こ。れ
 を。實。と。せん。其。知。る。退。そ。と。い。れ。ま。と。つ。花。鳥。の。如。く。飛。う。て。前。よ
 立。り。れ。二。と。く。腕。向。騰。嫌。ひ。な。く。む。ら。て。す。ん。と。破。め。ハ。悪。少。年。ホ
 中。ん。く。怕。れ。く。逃。ん。と。す。れ。と。り。し。神。ハ。返。れ。と。輾。轉。起。ん。と。す。る
 次。丁。と。破。る。或。も。隻。手。打。落。され。或。ハ。膝。を。薙。削。され。と。ま。く。命。助
 れ。り。の。も。深。疾。負。ね。ハ。ま。う。り。け。れ。こ。の。と。れ。日。も。暮。れ。く。身。死
 歟。と。ハ。便。あ。れ。ハ。王。女。ハ。少。年。ホ。が。花。並。取。取。て。改。メ。戴。れ。桿。棒。を
 突。ま。す。祭。祀。の。舞。童。が。如。し。り。後。れ。く。海。う。こ。と。く。いと。う。ひ。し。く

こゝらへは。女小稀こまなれ日ひ纏まとの亡な魂たま小導こみち導みち也。因よ心こころ納な嶽たけもまけ入り
の山やまの越こ来きの北きたより。時とき方かた小大こおほ日本にっぽん人ひと白しろ王おう八十はち代だいの天子てんし。高たか倉くら院いん
の御代ごよ也。安元二年丙申秋九月二日也。

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 白王, 高倉院, and 安元二年.]

椿説弓張月續編卷之四

